

釧路市教育委員会 令和4年第22回10月定例会会議録

- 1 日時：令和4年10月28日（金）13時30分から14時50分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
（教育委員）
山口隆委員、種村俊仁委員、松尾千穂委員、小出美貴子委員
（事務局）
齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、早坂学校教育部次長、池田総務課長、小野施設計画主幹、富田総括指導主事、澤口生涯学習部次長、松本博物館長、平野ふれあい主幹、島スポーツ課長、
- 4 議事録署名人 種村委員、小出委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- （1）学力向上に係る教育視察研修の実施について
- （2）Google for Education 研修会について
- （3）MEXCBT・学習eポータルの導入について
- （4）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】 報告事項

(1) 学力向上に係る教育視察研修の実施について

(富田総括指導主事)

教育支援課から、報告事項 1、令和 4 年度学力向上に係る教育視察研修について報告する。

本視察研修については、令和 2 年度に実施していることから、今回で 2 回目となる。今回は、昨年度末に認定した授業マイスター 6 名とオブザーバーを含めると 3 名の指導主事、総勢 9 名での視察となる。前回は 3 名で視察へ行った。今後、多くの学校にしっかりと還元していくことを踏まえ、前回よりも短い日程ではあるが、多くの人数で訪問し、取組状況はもとより、なによりも大館市の学校や先生方の授業に向かう空気感を感じてきたいと思っている。その上で、研修会等を通じて、各学校にしっかりと還元していきたいと考えている。

視察日程については、移動日を含めて、3 泊 4 日、11 月 8 日～11 日までとしている。

視察する学校については主に 2 校であるが、ほかにも数校、数人で別れて道徳や特活等の授業参観もこれに加えて増えている。指導主事も含め、マイスターがより一層力をつけて戻ってくるよう、大館市の状況をつぶさに視察して帰創したいと考えている。

戻り次第、また定例教育委員会で報告させていただく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

私たちが大いにこの視察に期待しているため、収穫の多い、実りの多い視察になることを望んでいる。私たちが釧路市内のマイスターの授業を見させていただいているが、さすがだなと感じる授業を見ることができた。マイスターの先生の良い授業を見て学ぶ機会を釧路市内の多くの先生に体験してもらいたいし、これから釧路市内でマイスターになっている先生の活躍に期待したいと思うため、具体的な計画を前に進めていただきたいと思う。一つ質問で、来年度以降のマイスターの先生方の活用方法や、このように発展させていきたい、6 名に限らず授業力のある先生方をマイスターにする、といったような方向性を考えているのかどうかを聞きたい。

(富田総括指導主事)

今年度も校長先生と授業を見ながら、今年度のマイスター認定に向けて取り組みを進めているところである。次年度以降のマイスターの活用については、今年度は、初任段階を中心に授業公開して、授業のいろはを伝えられるような場を設定していること、センター講座において国語、算数、数学、理科等の授業をしていただき、初任段階以上のベテランの先生も含めて、授業公開にて授業改善のきっかけとしていただいているところだが、次年度以降も継続するとともに、今回行くことで大館のマイスターと面識ができて交流できることから、こちらにも来ていただき、例えば釧路市で授業をしていただき大館のマイスターと関係を密

にしていくことで、より大館の教育を釧路市の学校教育に取り込めるのではないかというイメージはしている。

(山口委員)

私たちが釧路市内のマイスターの授業を見て、たいしたものだ、さすがだなと思うことも多かったが、その釧路市内のマイスターの先生方が大館に行って、さらに素晴らしい授業を見ることで、一皮も二皮も剥けて帰ってくるのではないかと期待している。説明の中にできれば来年度以降、大館のマイスターの先生に釧路に来てもらい授業をしてもらおう、これは今年の教育長の講演の中でもそのような話があったと記憶しているので、ぜひ実現して大館の素晴らしい先生の授業を生で釧路市の多くの先生が見る機会があればすごく勉強になるのではないかなと思っています。実現する方向で考えていただければと思う、要望である。

(冨田総括指導主事)

本人たちもとても楽しみにしているが、それをどう還元していくかということにも意識があり、その難しさをどうするかということも考えているようである。

(山口委員)

その収穫物を釧路に帰ってどう還元するかという話し合いもしっかり行っていただきたいと思う。

(岡部教育長)

報道で知ったのだが、別海町の教育委員会がすでに大館の授業マイスターと中継して授業を見てもらうという取組を行っていて、やられたなという気はしているが、別海町の取組みも釧路と大館の交流が起点となって実現した取組みであるので、かなり秋田県大館市と北海道釧路市を中心とした交流というものが、深まってきている印象を持っている。ご指摘のことも含めながら今後もこの取組は山口委員がおっしゃる通り、戻ってきてからがむしろ大事で、向こうで得たものをどうやって釧路市内の中で波及させていくか、授業マイスター第1号の6人なのでそういった自覚を持っていると思うが、そのあたりは出発前に改めて私からも伝えながら、成果につながるような取組にしていきたいと思っている。

(山口委員)

別海町は助成金や国からの補助金が多くもらえる街と認識しているので、大館のマイスターを呼ぶ財政的な余裕はあると思うが、釧路市も財政事情が厳しい中でも市長の理解を得て、ぜひ予算を取って来年度大館のマイスターを呼んでいただければと希望する。

(岡部教育長)

実は今回の派遣に関しても、経費は釧路市の予算だけではなく、道教委の予算も一部取り込んで準備したところである。つまり道教委も授業力向上や授業マイスターというところで、釧路市の取組みにかなり興味を持っていただいている表れなのかなと思う。関係機関との連携を通してより進めていきたいと思う。

(小出委員)

マイスターの先生方の授業を見せていただいたり、そのほかの先生の授業を見せていただいたり、色々見せていただいた中で感じたことがある。授業マイスターの先生は授業が上手

と言うことだけでなく、生徒との関わりといったような、学力向上に関わることだけではなく、授業マイスターの先生からほかの先生が学ぶこととして希望することである。先生ひとりひとりがこの授業を何のために行っているのか、子供たちにどのように受けてほしいか、どういうところを目指して学んでほしいかなどを、先生自身が持っていないとよい授業はできないのかなと感じており、そういうところを先生ひとりひとりが授業の時だけでなく、授業に向かう姿勢のような根本的なところをマイスターの先生から学んでほしく、そういうところを共有してもらえればよいと思った。

【公開案件】 報告事項

(2) Google for Education 研修会について

(早坂学校教育部長)

報告事項2、Google for Education 研修会について報告する。

釧路市教育委員会では、Google 社と連携し、Google for Education アプリについて、一人一台端末を活用した中で、教員の実践的指導力の向上を図るため、9月に説明と演習を兼ねたGoogle for Education 研修会を実施した。

Google for Education とは、児童生徒の学習用端末 Chromebook で活用している、Google Classroom (生徒に問題を配り、その回答を採点してフィードバックできるソフト)・Google Form (アンケート調査等で使うアプリ)・Google Jamboard (情報共有できる電子版ホワイトボードのようなもの) など、多数のアプリを有する児童生徒の学習を支援する学習支援ツールの総称である。

研修内容は別添資料のとおりレベル別に3つの研修を2回ずつ実施し、全体で87名が参加した。参加者は小中学校の教員が半々といった感じであった。

教員が Google for Education を活用することで期待できる効果として、朝の職員会議では共有する資料をソフト内で効率的かつ間違いなく情報の伝達を行うことができる。ホームルームでは紙のプリント配布をやめて画面上で連絡することで記録として残し、後から見返すこともできる。授業では写真や映像を取り込むことで可視化した授業の展開、ディスカッションの結果をすぐに反映して、子供たちの意見を可視化することもできる。先生方の業務の効率化や効果的な面でメリットがあると考えている。今後は管理職に特化した研修を開催するなど、教員が学習支援ソフトをより効果的に利用できるように、スキルの習得、向上を図っていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

説明の中に含まれているため、あえて質問しなくてよいかなと思ったことがあり、ぜひ管理職にも研修に参加してもらい、識見を深めるとスキルをアップしてほしい。学校の先生

がせっかく整備された機器をより効果的に活用するためには、どうしても校長先生の指導が必要になる場面が多いと思うが、その校長が何事かわかっていなかったら指導する具体的手立ても薄れてしまう。そのため、管理職に特化した研修を来年度早々に計画、実施してほしいという希望。すごく良い研修内容を Google の協力を得ながらという印象を受けたため、スタートアップからコア、コア plus という応用編に段階がアップしていく研修が、今年度は 87 名参加ということだが、毎年同じような研修をできれば釧路市内のすべての先生方が参加できるようなところまで継続していただきたいと考えているが、見通しとして不可能であるか。

(早坂学校教育部長)

今回の研修でも校長先生、教頭先生が 15 名ほど参加しており、山口委員がおっしゃったような Google for Education に特化した研修の開催も可能であるし、校長会や様々な場面を通じて参加を促すということも可能かと考えている。講師の方も、全国を渡り歩いて研修を専門に行っている方であるため、内容もわかりやすく、参加者が互いに話し合いながら進めている姿が印象的であった。

(山口委員)

来年度以降、同じような研修を何年か継続して行っていくことは可能であるか。

(早坂学校教育部長)

可能である。

(山口委員)

ぜひすべての先生が研修を受けられるような形で頑張っていたいただきたいと思う。

(種村委員)

この研修は三段階に別れているが、段階を踏んである程度少しずつ変えているのか。

(早坂学校教育部長)

参加申し込みの段階で先生自身がどのレベルを望むか、自分のレベルを考慮して初歩的なものであればスタートアップから申し込んだり、ある程度分かる先生であればコア研修、コアプラスに参加したりする。

(種村委員)

これは実際に生徒も使えたりできるような感じなのか。

(早坂学校教育部長)

これは先生から子供たちに対して使用する教育支援ソフトの機能であるため、先生がメインで使うアプリケーションソフトになっている。

【公開案件】 報告事項

(3) MEXCBT・学習 e ポータルの導入について

(早坂学校教育部長)

報告事項 3、MEXCBT (メグベツト)・学習 e ポータルの導入について報告する。

MEXCBT (メグレット) とは、公的機関が作成した学力テストの過去問題がコンピュータの中に蓄積され、それを文部科学省がシステムとして開発したものである。MEX は文部科学省の略で、CBT はコンピュータにあるテストという意味で、それらを組み合わせた造語である。

国は、来年令和5年4月の全国学力・学習状況調査中学英語「話すこと」の調査において MEXCBT を活用予定で、令和6年度以降の全国学力・学習状況調査等において活用範囲を順次、拡大することとしている。

国開発 CBT 問題というところに様々な過去問題が3万件ほど蓄積されており、順次 MEXCBT の機能が付加されていくシステムになっている。手動採点システムやデジタル教材は今後付加される機能となっている。教員が MEXCBT 利用する際のプラットフォーム役となる学習 e ポータルというものがあり、ログインすることで過去問題にアクセス、活用ができる。MEXCBT を使うことで生み出される効果は、データ配信や自動採点によって、印刷などの手間がなく即時採点可能となるなど、業務の効率化が挙げられる。また、学習履歴、テスト、回答結果など、学習状況のデータ化、可視化というものが、学習 e ポータル上で見ることができる。

学習 e ポータルを開発した業者は複数社あり、国から各自治体に対して、今年の11月までにどの業者の学習 e ポータルにするか決めておくようにという通知があり、釧路市においては、選定作業を進めていたところである。選定対象業者は NEC、NTT コミュニケーションズ、内田洋行など数社ある中から、自治体が任意で選ぶこととなっており、当市においては各業者からシステムに関する情報を聞き取り収集し、教育委員会及び GIGA スクール構想実現に係るプロジェクトチームにおいて比較検討を行った結果、導入準備において児童生徒アカウントの作成作業を教育委員会内で簡便に行うことができること、新学期開始後早々に使用開始できること、教員への研修会実施に対応可能なことなど、サポート体制が充実していることへの評価が他社より高かったことを踏まえて、内田洋行に学習 e ポータルを選定した所である。

今後の作業については冬休みの間に教員の研修、また、年度末には全国学力状況調査、事前テストなどを行い、4月の地点に間に合うように準備を進めるということになっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

生徒のアカウントを作らなくてはいけないということは、生徒個々のアカウントということか。

(早坂学校教育部長)

その通りである。

(山口委員)

作業は教育委員会で行うことができるというが、それを受けて自分のアカウントを子供たちは与えられる。MEXCBT のアカウントとすでにロイドノートのアカウントもあるという

ことだが、現段階で子供が自分のアカウントとして認識しなくてはいけないものが2個あるということか。

(早坂学校教育部長)

その通りである。

(山口委員)

今後もアカウントが増える可能性もあると思うのだが、生徒個々の管理というのは大丈夫なのか。

(早坂学校教育部長)

おっしゃる通り、子供たちにとってアカウントが何個も出てくると、混乱を招いたり、授業の場でも効率的な作業が難しくなってくると思う。

(山口委員)

まず教育委員会で作ったアカウントを各学校が自校の子供の個々のアカウントを管理して、適切に子供に提供できるように、それが徹底されなければ混乱が生じるのかなという不安を感じる。非常に便利なのだろうとは思いますが、さらにアカウントの管理について検討していただければと思う。

(種村委員)

背景にある来年の全国学力状況調査の中学生について、従来はリーディングとリスニングという2つの技能を試していた。それにスピーキングが入るということは課題を与えられ、それについての1分スピーチをして、AIか何かに聞かせて配点するというようなものなのか。

(早坂学校教育部長)

それぞれの端末を使って行うものと考えている。

(種村委員)

すごいことだなと思う。おそらく入試の配点にはこれから、話すことが出ると思う。そういったものに利用される可能性はあると思う。来年度はスピーキングの問題を重ねることか。

(早坂学校教育部長)

まずは話すこと分野で導入してみるということを国が言っており、まず間違いなく導入される領域というのは令和6年度以降拡充されてくる。

【公開案件】 報告事項

(4) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

「信頼」に基づいて説明する。

今年度、例年にない、年度途中で、校長1名、教頭4名の大幅な管理職の異動があった。校長先生方には混乱なく終わったため、お礼を伝えてある。また、学力向上プランの協議が

終わったため、そのお礼を伝えた。

1点目は、全国学力・学習状況調査の質問紙について結果の一覧表を校長先生方に配付した。中学校区で同じような課題が多く、例えばテレビゲームの時間が長いというような。課題が共通している場合には、各学校のPTA会長やCS協議会委員長の連名で保護者への文書やメールを出すようお願いした。家庭の問題も大きいため、保護者や地域と学校が一緒に取り組むようお願いした。

2点目は、釧路市標準学力検査について、今年度から10日間遅らせての実施にした。これで、出題範囲の学習がぎりぎり終わることがなくなったため、ゆとりをもって終わって、テスト勉強のパワーアップ週間を各学校で設けるなど、検査当日にベストの結果を出せるようお願いした。

また、これまで基準値に「期待値」を活用してきたが、信憑性に不安が残るため、今後は全国平均を基準にし、経年変化を見ていくことを伝えた。

学力が低いことにはそれなりの理由があるため、例えば学級崩壊や不登校や生徒指導上の問題を持っているということがあるため、校長としては「学力」を重要な指針にするよう、指導している。

3点目は、これに関わって、全国平均の-5ポイントがキーポイントになるという説明をした。わかる授業をして、宿題を出して、テストで間違いを補って、理解したことを確認していれば、-5ポイントより低くはならないということが分かったので、そのことを校長先生に伝えて12月の教育学力検査に向けて、自校の各学級、学年の様子について配慮するようにお願いをした。

4点目は、時間外在校時間について、毎年教頭先生の残業時間が長いこと昨年度の実践一覧を配付し、それを見ながら今年度の状況を確認するように話した。特に教頭先生の時間外在校時間が気になるので、校長先生には仕事の配分の見直しを進めるようお願いをした。

最後に読書週間について、先月の定例教育委員会で説明があった通りに、各学校に周知のお願いとそれぞれの学校で取組める内容については取組むようお願いをした。

信頼については以上だが、本日文科省の問題行動等調査の数字が公表になったため、釧路市におけるいじめ、不登校の確定値をお知らせする。いじめの認知件数は小学校で1003件、中学校で226件で、小中合わせて対前年度比307件の減少になっている。ただ、いじめは減れば良いということではなく、今後も積極的に認知して解決を図ることが必要だと考えているため、積極的な認知、解決の確認を進めていきたいと考えている。また、不登校については小学校102名、中学校240人、小中合わせて対前年比で47名の減少になっている。不登校については、コロナの影響があったものの、各学校で別室での登校を促すなど、居場所づくりに積極的に取り組んだことで、若干の減少が見られたのではないかと考えている。詳しい分析は今後になるが、不登校が依然多いことから、これからも学校と連携して取り組みを進めるようにしたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

－5ポイントの課題について、+2を+3にする労力と－5を0にする労力、どちらが大変かという、絶対現段階でプラス段階にあるものを1ポイント上げる方が大変。マイナスを0に回復する努力の方が、取組めば確実に成果が上がってくるのが一般的。先ほど説明があった、宿題を与えて、テストで間違いを補って、理解したことを確認する、このサイクルは当たり前のことであるため、この当たり前のことを確実にやれば、必ず－ポイントは改善されていくと思うため、全ての学校でその当たり前のことを確実にやれる努力を徹底していただきたいと思う。